

「必要なもの」と「欲しいもの」

勤め人は、たいてい自分の収入が予め分かっていますから、出費をコントロールできればクレジット・カード等の返済が滞ることはありません。計画的にできる人は、資金繰りのために「ご利用は計画的に」と言われるサラ金を通常は必要としないでしょう。



一般的な家庭の家計費の内訳は、概ね下図のように分けられます。

全体の約7割を占めているのはNEED、つまり生活に必要とされるものです。残り3割はWANT、こちらは欲しいものであって、買わなくても生活には困らないものです。



モノを売る側の立場となれば、消費者の購買意欲を高めるために、あの手この手で消費者の欲しい気持ちを刺激し、「あなたに必要なものです」との意識づけをしようとします。周辺の話やマスコミなどの影響によって、ウォントがいつの間にかニーズに差し替わる、あるいはウォントのハードルが徐々に下がり、少々無理してでも購入しようかと気持ちへと傾きます。



最悪のシナリオは、ウォントの支出が高まりすぎてニードのお金まで使ってしまう、返せる範囲を超えてしまって借金をしてしまうことです。ウォントを適度に自制する心は、子供の頃の親の教育が大切なかもしれません。

何かを欲しいと思うことは自然なことです。欲しいという気持ちは、生きるエネルギーにもなります。欲しいものを欲しいと言ったり、欲しいものを買ったりすることは決して悪いことではありません。

同時に使えるお金には限りがありますから、ほとんど支障がないものは我慢する、ないなりに出来る工夫をしてみる…といったバランス感覚が大切でしょう。



酪農業界でも、様々な資材や機械をはじめとするモノが取り揃えられています。中には怪しげな酪農技術を装っているモノもあります。

あれが手に入れば一気に生産力は高まるのに…(T_T) 本当に必要かどうかを深く思慮せずに、とにかく買いたい・欲しいという気持ちが優先してしまうと、ちょうど子供

がおもちゃを欲しがると同じ心理状態になります。そこに必要であるとの理屈を付け足すという悪知恵は、時に経営にダメージを与える“疾病”ともなりかねません…。

「欲しい」自制心をチェック！

- ✓ 自動〇〇機という響きが耳に心地よい
- ✓ 既存の機械や施設の短所に目が向きやすい、物足りなさをすぐに感じやすい
- ✓ 特定業者と親密につき合う
- ✓ 安く買ったことを自慢する、または買わなかったことを自慢したことがない
- ✓ 様々な添加物やビタミン剤をいっぱい持っている
- ✓ 5袋に1袋サービスします…という言葉が好き
- ✓ コンピュータ制御の最先端技術…といったうたい文句に弱い
- ✓ 現在の仕事の問題点をまず機械や資材の導入などで図ろうとする
- ✓ 他人の施設が上手くいっていると思うと、同じものを作ろうとする
- ✓ 他人のやり方が上手くいっていると思うと、やり方だけを真似しようとする
- ✓ 熱しやすいが、さめるのも早い(北海道らしい…)
- ✓ 情報源の多くが無償である
- ✓ 新しい技術(らしきもの)、変化には飛びつきやすい
- ✓ 子供じみた大人買いをしたことがある
- ✓ 技術や情報に酔いやすい
- ✓ お人よしな方である
- ✓ 短気である



足るを知る

